

平成 29 年度・教育学部・研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	教育学部・研究科の取り組みを示すポシチ絵（公表用 1 枚）
基準 4 学生の受入 4－1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4－2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○前年度に改定したアドミッション・ポリシー（AP）は、入学者選抜要項（学部）、学生募集要項（学部・研究科）及び本学部・研究科 HP で公表し、明示した求める学生像及び選抜方法ごとの見る力に従い、適切に入学者選抜を実施した。 ○高等学校代表者との懇談会（5/31 実施）及びオープンキャンパス（8/8、8/9）等において、AP に基づく本学部が求める学生像（学力の 3 要素等）及び教育の特色を説明した。 ○H31 年度入学者選抜（H30 実施）から、AP の基本理念等に沿った岐阜県内の教員を目指す学生を広く募集する「ぎふ清流入試」（推薦Ⅱ）を全講座等（技術教育除く）において実施することを決定し、公表した。 ○学部の入学者数は入学定員の 1.04 倍であり適正な数である。 ○研究科の入学定員 69 名に対して、合格者数は 73 名、入学者数は最終的には入学定員の 0.83 倍の 57 名であり、今後の検討課題である。	入学者選抜要項、大学院募集要項（抜粋）（資料 1－1） 学部・研究科 HP（資料 1－2） 説明投影資料（資料 2） 2019 年度入試の変更について（資料 3） 入学者選抜概況（資料 4）	
基準 5 教育内容及び方法 5－2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5－5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○Web シラバスにおいて、各授業の「到達目標」と「評価の方法」及び「時間ごとの内容」を明示することによって、単位に対する事前・事後学習を促すようにしている。 ○学生が自分自身で身に付いた能力を確認しながら、目標をもって各学年・学期の学修を進められるようカリキュラムマップ及び学修録を作成し、学部新入生に配付した。 ○適正な学修時間の確保を通じて単位の実質化を図るため、全ての教養科目・専門科目を GPA 対象科目とし、GPA 結果による履修上限単位を定めている。 ○1 年次で履修する教職トライアルの見直しを行い、H29 年度入学者から教職の魅力を伝え教職の動機づけを高めることを目的とする構成・内容に変更した。 ○次年度から 2 年次に行う教職リサーチの実習校を市内の小・中学校の輪番制から実習指導に慣れている教育実習校で実施することに改めた。さらに翌年度、学生は引き続き同じ実習校での教育実習（プラクティス）を履修する形とした。また、中学校の教職リサーチは、実習時期を体育祭等の準備で学びが不十分となりやすい 9 月から 11 月に変更した。 ○教職大学院は、改編した学校管理職養成コース・教育実践開発コースの学生を初めて受け入れた。全国初の学校管理職養成コースでは、教育委員会等における実習を開発し、教育実践開発コースでは、現職教員が学びやすいよう夜間開講科目を新たに整備した。	学部・研究科シラバス（資料 5） カリキュラムマップ（資料 6－1）、学修録（資料 6－2） GPA 取扱要領（資料 7） 教職トライアルの見直し（資料 8） 下記資料 18（教職リサーチ実施要項） 教職大学院改組概要（資料 9）	

基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 ○学生による授業評価アンケート結果より授業評価の肯定率が、学部平均で前学期 82.6%（前年度 81.1%）、後学期 88.2%（前年度 85.7%）と高い評価を保持している。 ○見直しを行った教職トライアルの事後に学生アンケートを実施し、98.5%の学生が満足、97.2%の学生が次年度の教職リサーチに役立つと思うとの高い値を得られた。 ○卒業時及び修了時の意識調査より、学生の教員としての知識・技能・態度に関する学習成果は、総合的に肯定率を平均して学部 71.4%、研究科 54.0%であった。学部は「人と関わる力」、「子供を理解する力」、研究科では「自分で問題を発見し、解決法を考える力」、「専門の知識・思考力」において高い評価が得られている。 ○H30 年 3 月卒業者及び修了者の教員就職率（進学者除く）は、それぞれ 66.8%（前年度 68.8%）、70.5%（前年度 70.5%）であった。卒業者の過去 5 年間の推移からは教員以外の就職率が若干増加傾向にあるため、今後の検討課題である。 ○過去 5 年間の標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率の推移、資格取得の状況等を確認した。 ○卒業時の専門的能力評価の試行を保健体育講座の卒業者で行った。評価項目や評価内容等を次年度引き続き検証する予定である。	授業評価結果（資料 10） 教職トライアル事後アンケート（資料 11） 卒業・修了時アンケート結果（資料 12） H30.3 卒業者・修了者の就職状況（資料 13） 標準修業年限内の卒業（修了）率・資格取得等の状況（資料 14） 専門的能力評価試行（資料 15）	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○前・後学期授業について、学生からの授業評価結果を受けて教員によるリフレクションを実施した。この結果は、集約結果を学部内で公表している。また、11/15（水）に開催した FD（90 名参加）において教育の工夫や改善を共有した（後学期は H30.6 を予定）。 ○教育実習（プラクティス）及びリサーチを効果的に実施するため、実習校、岐阜県教育委員会及び岐阜市教育委員会並びに本学部教員等による教育実習運営協議会、「教職リサーチ」実習に関する協議会（次年度は教育実習運営協議会に吸収）を設けており、各協議会とも年度内に 2 回開催した。次年度からの改善点として、教職リサーチの見直し計画を最終的に調整し、承認した。 ○H28 年度教職大学院認証評価（教員養成評価機構認定）において指摘を受けた事項について継続して対応している。そのうちシラバスについては、次年度に向けて現職教員学生と学部新卒学生（ストレートマスター）との到達目標を区別し改善を行った。 ○自己点検評価委員会による自己点検・評価の結果を踏まえ、将来計画検討委員会や関係の委員会において指摘事項の対応の検討・立案・提案を行っている。また、必要に応じて学部長の命により WG を立ち上げて対応している。H29 年度は、再課程認定 WG を立ち上げ、H31 年度からの入学生対象の教職課程（再課程認定）について検討した。 ○教育改善及び向上を目的として、上記授業 FD のほか、次の FD を開催した。 ・多様なニーズのある学生の支援について（サポートルーム、保健管理センター）4/19（水）90 名	リフレクションペーパー集約結果（資料 16）、FD 資料（資料 17） 教職リサーチ実施要項、教育実習協議会要項（資料 18） 教職大学院認証評価対応（資料 19）	

	・ H29 年度教育指導（進路）の見通しについて（進路相談室） 5/17（水） 90 名 ・ 新入生アンケートの結果について（自己点検評価委員会） 5/17（水） 90 名 ・ H28 後学期授業評価 FD（自己点検評価委員会） 7/19（水） 88 名 ・ 情報セキュリティセミナー及び新 AIMS セミナー（情報連携統括本部） 9/20（水） 77 名 ・ H29 年度教育指導（進路）後半の指導について（進路相談室） 10/18（水） 92 名 ・ 岐阜大学自殺予防 FD ～現状と対応策～（保健管理センター） 2/21（水） 87 名		
--	--	--	--

平成29年度教育学部・教育学研究科における教育改革（基準4, 5, 6, 8 関係分）

基準4 学生の受入

入試委員会

入学者選抜の改善に繋がった取組

- ◎選抜要項・募集要項・HPでAPを公表
- ◎APに沿った適切な入学者選抜を実施
- ◎高校代表者との懇談会、オープンキャンパスで求める学生像説明
- ◎H31年度入学者選抜「ぎふ清流入試」（推Ⅱ）の実施決定・予告
→APに基づき求める学生像を公表
- ◎H30年度入学者
学部：259名/定員250名（定員充足率103.6%）
研究科：57名/定員69名（定員充足率82.6%）→！課題

基準5 教育内容及び方法

将来計画検討委員会

教学委員会

ACT実施委員会

単位の実質化を図るための取組

- ◎Webシラバスに到達目標・評価の方法・時間ごとの内容明示
→事前・事後学習の促し
- ◎カリキュラムマップ、学修録
→学生自身が身に付いた能力を確認しながら目標をもって学修
- ◎GPA、CAP制→適正な学修時間の確保
- ◎教職トライアルの見直し→教職の魅力・動機づけ
- ◎教職リサーチの見直し→学びを深め教育実習にスムーズに繋げる
- ◎教職大学院改組
教育委員会等における実習を開発した（学校管理職養成コース）
夜間開講科目（教育実践開発コース）→現職教員の学びやすい環境整備

基準6 学習成果

自己点検評価委員会

学習成果の向上に繋がった取組

- ◎学生による授業評価の学部内公表（H24年度～）
総合的な肯定率平均：前期82.6%（前年度81.1%）、後期88.2%
（前年度85.7%）→学習効果の高さ保持
- ◎見直した教職トライアル学生アンケート
満足98.5%、次年度の教職リサーチに繋がる学習効果あり97.2%
- ◎卒業・修了時アンケート
学部：「人と関わる力」「子供を理解する力」
研究科：「自分で問題を発見し、解決法を考える力」
「専門の知識・思考力」
- ◎H30.3卒業・修了者の教員就職率（進学者除く）
学部66.8%（前年度68.8%）研究科70.5%（前年度70.5%）→！課題

ACT実施委員会

基準8 教育の内部保証システム

教育の質の改善に繋がる取組

- ◎リフレクションペーパーの集約結果学部内公表、FDの実施
→教員相互の授業評価、教員教育力の自律的向上

教職大学院運営委員会

- ◎教職大学院認証評価（H28外部評価）指摘事項の対応進行中
シラバスは、現職教員とストマス（学部新卒学生）を区別
→キャリアに応じた到達目標

教育実習運営協議会・「教職リサーチ」実習に関する協議会

- ◎次年度から教職リサーチの見直し